



写真1 海外研究動向調査のため滞在した  
オックスフォードで（1997.5）  
ウルフソン・カレッジの院生とパブで談笑



写真2 国際養子縁組調査で赴いた  
コペンハーゲンの列車内で（2009.8）  
通訳をお願いした同地居住の元教え子の渡辺智美さんとその娘さんと



写真1 スウェーデンの国際養子家族と（2011.12）



写真2 釜山の焼肉店「ポドチョン」で（2018.3）  
東亜大学校・崔仁宅教授（『臓器は「商品」か』の韓国語訳者）と

## 出 口 顯 教 授

### （主な経歴）

- 1957年3月 島根県に生まれる
- 1979年3月 筑波大学比較文化学類卒業
- 1982年3月 東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻修士課程修了
- 1984年6月 東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻博士課程退学
- 1984年7月 島根大学法文学部 助手
- 1988年4月 同 助教授
- 1996年1月 博士（文学）取得（筑波大学）
- 2000年4月 島根大学法文学部 教授
- 2022年3月 同 退職

### （島根大学での主な役職）

島根大学副学長、法文学部副学部長、法文学部入試委員長、法文学部教育委員長

## 【研究業績】

### 【著書(単著)】

1. 『名前のアルケオロジー』紀伊国屋書店、254頁、1995年
2. 『誕生のジェネオロジー：人工生殖と自然らしさ』世界思想社、331頁、1999年
3. 『臓器は「商品」か：移植される心』講談社現代新書、講談社、207頁、2001年
4. 『レヴィ＝ストロース斜め読み』青弓社、272頁、2003年
5. 『マウムル イシック ハンダ』(心を移植する、著書3の増補改訂韓国語版、崔仁宅訳) シムサン社(韓国、ソウル)、287頁、2006年
6. 『神話論理の思想 レヴィ＝ストロースとその双子たち』みすず書房、338頁、2011年
7. 『レヴィ＝ストロース まなざしの構造主義』河出ブックス、河出書房新社、208頁、2012年
8. 『ほんとうの構造主義 言語・権力・主体』NHKブックス、NHK出版、286頁、2013年
9. 『国際養子たちの彷徨うアイデンティティ レヴィ＝ストロース『野生の思考』を読み直す』現代書館、246頁、2015年

### 【著書(編)】

1. DEGUCHI Akira ed. *Circulation of Human Body Parts: Local, National and Beyond*, Tokyo; Research Institute for the Language and Culture of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 89頁、2007年1月
2. 出口顯・三尾稔編『人類学的比較再考』(国立民族学博物館調査報告SER 90)、327頁、2010年3月
3. 出口顯編著『読解レヴィ＝ストロース』青弓社、360頁、2011年

### 【翻訳(監訳)】

1. ゴドフリー・リーンハート著『神性と経験 デインカ人の宗教』(出口顯監訳・坂井信三・佐々木重洋訳) 法政大学出版局、514頁、2019年(全体の監訳と第八章の訳を担当、監訳者まえがきとあとがき、及び解説を執筆)

### 【論文](共著書を含む)

1. 「アザンデ族の民話：その構造分析の試み」『人類文化』第2号、39-51頁、1980年
2. 「ニャキュサ族の親族関係と隣人関係：年齢村の文化的説明」『社会人類学年報』第9巻、111-135頁、1983年
3. 「排除される死、生を与える死」『社』第45号、15-29頁、1983年
4. 「ジェンダーとタブー」牛島巖、松沢員子編『女性の人類学』至文堂、83-105頁、1984年
5. 「ムラの統合と離散：熊本県五木村頭地地区の事例から」『地域社会教室論集』第3号、27-47頁、1986年
6. 「ギス族の自殺、葬儀、割礼：自我と社会への構造論的アプローチ」牛島巖編『象徴と社会の民族学』雄山閣、141-168頁、1997年
7. 「高地トンガ(ザンビア)の占い師の憑霊：一つのテキスト」『族』第3号、115-134頁、1987年
8. 「女がブッシュへ行つた：ウドゥク神話の不可逆性とずれ」小川正恭・渡邊欣雄・小松和彦編『象徴と権力：社会人類学の可能性II』弘文堂、15-34頁、1988年
9. 「神話、決して現前しなかった過去の話」『思想』第779号、53-73頁、1989年
10. 「構造と主題：ブリコラージュとしての昔話」『族』第15号、1-14頁、1991年

11. 「野生の個人名」『思想』第 813 号、111-141 頁（加筆修正して著書 1 の第一部として再録）、1992 年
12. 「エチオピア西南部ディジの社会構成」『スワヒリ・アフリカ研究』第 3 号、79-102 頁（加筆修正して、論文 14 として英訳）、1992 年
13. 「誤解されるレヴィ = ストロース：適正な距離、力強い空虚、他者」『岩波講座現代思想 5 構造論革命』岩波書店、63-97 頁、1993 年（加筆して著書 4 に再録）
14. 'Rainbow-like hierarchy: Dizi social organization', *Senri Ethnological Studies*, 43 : 121-143, 1996 年
15. 'The philosophy of the margin or the space which cannot be utilized: Structuralist analysis of Mandari myths ', *Senri Ethnological Studies*, 43 : 255-274, 1996 年（加筆して日本語論文として著書 4 に再録）
16. 「文字は告げる：書くことと読むことをめぐって」『現代詩手帖』第 40 巻 2 号、38-45 頁、1997 年（加筆して著書 4 に再録）
17. 「見出された潜在的神話と構造主義：『神話論理』から『野生の思考』へ」『岩波講座文化人類学第 10 巻 神話とメディア』岩波書店、77-98 頁、1997 年（加筆して著書 4 に再録）
18. 「生殖テクノロジーと社会人類学」大胡欽一・加治明・佐々木宏幹・比嘉政夫・宮本勝編『社会と象徴：人類学的アプローチ』岩田書院、539-553 頁（加筆して著書 2 の第三章として再録）、1998 年
19. 「変わる家族像？」『社会システム論集』第 3 号、123-139 頁（一部を著書 2 の終章として再録）、1998 年
20. 「名前と人格の系譜学：マルセル・モース再読」上野和男・森謙二編『名前と社会 名づけの家族史』早稲田大学出版部、28-58 頁 1999 年（加筆して著書 4 に再録）
21. 「商品としての身体、記号としての身体：臓器移植・アイデンティティ・想像の共同体」『思想』922 号、83-107 頁（加筆し発展させたものが著書 3）、2001 年
22. 「社会的インセストとしての婚姻」『日本人類学会進化人類学分会ニューズレター』3、11-21 頁（加筆して発展させたものが論文 23）、2001 年
23. 「インセストとしての婚姻」川田順造編『近親性交とそのタブー』藤原書店、85-115 頁、2001 年（加筆して著書 4 に再録）
24. 「臓器移植・贈与理論・自己自身にとって他者化する自己」『民族学研究』66 (4)、439-459 頁、2002 年
25. Organ Transplantation, Identity and Imagined Community, *JASO*30 (2) : 145-161 頁、19-130, 1999 年（実際の刊行は 2002 年）
26. 「Unclear Family—生殖医療技術は家族を変えているか？」『新生殖医療技術に関する社会・文化的対応の国際比較』（科研費研究成果報告書、研究代表者 上杉富之）成城大学、145-161 頁、2003 年
27. 「ノルディック諸国の生殖医療技術への対応におけるナショナルとグローバル」『人倫研プロジェクト NEWS LETTER』（北海道大学大学院法学研究科）2、10-20 頁、2003 年
28. 「人類学の方法としての比較の再検討—序にかえて」『民族学研究』68 (2)、214-225 頁、2003 年
29. 「生殖医療技術と現代家族」『死生学研究』（東京大学大学院人文社会系研究科）2003 年秋号、163-171 頁、2003 年

30. 「ジョディ・フォスター、代理母、卵子提供者：生殖医療技術・女性・家族を再考するための三つのモデル」上杉富之編『現代生殖医療：社会科学からのアプローチ』世界思想社、222-237頁、2005年
31. 「スウェーデンの国際養子：その可能性と問題点」『産科と婦人科』72巻10号(10月号)、1287-1293頁、2005年
32. 「人類学の方法としての比較の再構築に向かって」『社会文化論集』2,21-28頁、2005年
33. 「E-Pを読み直す：オカルトエコノミー論を越えて」阿部年晴・小田亮・近藤英俊編『呪術化するモダニティ：現代アフリカの宗教的実践から』風響社、151-178頁、2007年
34. 「生成する中空：クロード・レヴィ＝ストロース『神話論理』を読む（一）」『思想』1002（2007年10月号）、145-162頁、2007年（加筆して著書6に再録）
35. 「国際養子縁組におけるアイデンティティの問題：スウェーデンの場合」菅原和孝編『身体資源の共有』（資源人類学9）、弘文堂、295-326頁、2007年
36. 「代理母—生殖と主体」春日直樹編『人類学で世界をみる』、ミネルヴァ書房、59-76頁、2008年
37. 「関係の関係性という旅：クロード・レヴィ＝ストロース『神話論理』を読む（二）」『思想』1013（2008年9月号）、74-99頁、2008年（加筆して著書6に再録）
38. 「距離への配慮：フーコーとレヴィ＝ストロースの神話論的素描」『思想』1016（2008年12月号）、255-276頁、2008年（加筆して著書6に再録）
39. 「仮面の声」『現代思想』38（1）（2010年1月号）、138-145頁、2010年
40. 「海の上のレヴィ＝ストロース」『道の手帖 レヴィ＝ストロース 入門のために 神話の彼方へ』、河出書房新社、48-65頁、2010年（加筆して著書7に再録）
41. 「序：人類学的比較再考」（三尾稔と共著）出口顯・三尾稔編『人類学的比較再考』（国立民族学博物館調査報告SER90）、1-20頁、2010年
42. 「文字通りでない意味への問いかけ：レヴィ＝ストロースの比較」出口顯・三尾稔編『人類学的比較再考』（国立民族学博物館調査報告SER90）、97-124頁、2010年（加筆して著書6に再録）
43. 「山分けの時空：クロード・レヴィ＝ストロース『神話論理』を読む（三）」『思想』1039（2010年11月号）、103-127頁、2010年（加筆して著書6に再録）
44. 「他者のための空洞」『社会人類学年報』vol.36、25-54頁、2010年（加筆して著書6に再録）
45. 「失われたレヴィ＝ストロースの復権」出口顯編著『読解レヴィ＝ストロース』、12-58頁、青弓社、2011年
46. 「養父母になった国際養子たち—スウェーデン、デンマークの事例から」『国立歴史民俗博物館研究報告』169、7-28頁、2011年
47. 「モンテーニュを再読するレヴィ＝ストロース」『思想』1054、8-29頁、2012年2月（加筆して著書7に再録）
48. 「過去をないがしろにしない：ゴドフリー・リーンハートの社会人類学覚え書き」『アリーナ』14、512-526頁、2012年12月
49. “Double or Extra: The Identity of Transnational Adoptees in Sweden”, *Culture Unbound*, Volume 5, 2013 : 425–450. Hosted by Linköping University Electronic Press: <http://www.cultureunbound.ep.liu.se>, 2013年9月
50. 「越境する家族形成としての国際養子縁組—スウェーデンの事例を出発点として」『比較家族史研究』



- 29、113-128 頁、2015 年 3 月
51. 「エヴァンズ-プリチャードとリーンハートの考え方—ナイロートの宗教研究における」『文化人類学』80 (2)、221-241 頁、2015 年 9 月
52. 「ブリコラージュ、進化、メーティス：文化と自然の統合」『現代思想 増刊号 人類学の時代』、151-169 頁、2017 年 2 月
53. 「建てることと住むこと—住居の物質性の研究のために」古谷嘉章・関雄二・佐々木重洋編『「物質性」の人類学』、183-204 頁、同成社、2017 年 3 月
54. 「ディンカとともに考える人類学 監訳者解説」ゴドフリー・リーンハート著『神性と経験 ディンカ人の宗教』（出口顯監訳・坂井信三・佐々木重洋訳）法政大学出版局、463-511 頁、2019 年 7 月
- 印刷中 a. 「イメージと規律 = 訓練：ティム・インゴルド批判」木俣元一・佐々木重洋編『マテリアリティ論集』三元社、2022 年 3 月刊行予定
- 印刷中 b. 「ライオン人間、象に変身できた男：「未開心性」論小史」木俣元一・近本謙介編『宗教遺産学の創成』勉性出版、2022 年 3 月刊行予定
- 印刷中 c. 「人は何故家族を求めるのか：文化人類学から」二宮周平編『生殖補助医療・養子&里親による LGBTQ の家族形成～その支援システムの構築』信山社、2022 年 3 月刊行予定

#### 【その他】

#### <研究ノート>

1. 「性をめぐる知識と行為—ツワナの事例から」『文化人類学』第 4 号、188-204 頁、1987 年
2. 「高地トンガ（ザンビア）の占い師の活動」『地域社会教室論集』第 4 号、115-134 頁、1988 年
3. 「額にバターをのせる儀礼：ディジ（南西エチオピア）の親族と婚姻」『地域社会教室論集』第 6 号、207-221 頁、1997 年
4. 「ナイル川世界」宮本正興・松田素二編『新書アフリカ史』講談社現代新書、149-178 頁、1997 年
5. 「自己への配慮？ 木村大治氏の書評に答えて」『民族学研究』第 63 巻 1 号、111-116 頁、1998 年
6. Mauss's influence in Japan, *Durkheimian Studies* vol.4, n.s. : 36-7、1998 年
7. 「見知らぬ名前（ストレンジ・ネーム）」『CAT』1999 年 11 月号、12-15 頁、1999 年
8. 「生殖医療 自然らしさとは」『読売新聞』2000 年 2 月 15 日夕刊、2000 年
9. 「密室と構造主義」『出版ニュース』2000 年 4 月上旬号
10. 「配偶子提供および IVF サロゲートに関する英国とスウェーデンの事情」（石原理と共著）『産科と婦人科』69 巻 2 号（2 月号）、237-242 頁、2002 年
11. 「Gift of life」『JMA マネジメントレビュー』10 月号、24-27 頁、2002 年
12. 「体外受精移植胚数の検討」（石原理・梶原健・岡垣竜吾・斉藤正博・林直樹と共著）『産科と婦人科』70 巻 2 号（2 月号）、173-179 頁、2003 年
13. 「提供配偶子を用いる生殖医療の北欧における事情」（石原理と共著）『産科と婦人科』71 巻 7 号（7 月号）、938-944 頁、2004 年
14. 「資源としての人体と倫理」『資源の分配と共有に関する人類学的統合領域の構築—象徴系と生態系の連関をととして』（文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究 代表内堀基光）中間成果論集、376-379 頁、2004 年
15. 「生殖医療をめぐる最近の話題—第三者配偶子を用いる治療の法的規制について—」（石原理と共著）

- 『産婦人科治療』90(1)、1-6頁、2005年
16. New Reproductive Technology and the Contemporary Family, in *Toward the Construction of Death and Life Studies, Bulletin of Death and Life Studies*, vol.1 : 35-38, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 2005
17. 「ドナー側のためらい、レシピアント側のとまどい：臓器移植と比較文化論」『臨床透析』21-6、116-119頁、2005年
18. 翻訳および訳者付記：クロード・レヴィ＝ストロース「アメーバの譬え話」『みすず』529、12-20頁、2005年
19. 「臓器移植患者の心と身体：生体腎移植患者の語りから」『歴博』133、15-18頁、2005年
20. 「ARTの現状—わが国と世界の動向」(石原理と共著)『臨床婦人科産科』60(1)、11-15頁、2006年
21. 「ノルウェー・スウェーデンの非匿名配偶子提供」(石原理と共著)『産科と婦人科』73(7)、925-931頁、2006年
22. 「人類学的比較とは？」『民博通信』115(特集人類学的比較とは？責任編集 出口顕)、2-3頁、2006年
23. 「比較研究再考」『民博通信』115(特集人類学的比較とは？責任編集 出口顕)、12-15頁、2006年
24. 「人体の部品化」内堀基光・菅原和孝・印東道子編『資源人類学』(放送大学教材)、日本放送出版協会、135-147頁、2007年
25. 「卵子提供の現況とその倫理的諸問題」(岡垣竜吾・石原理と共著) *Journal of Mammalian Ova Research* (『日本哺乳動物卵子学会誌』) vol.24、142-152頁、2007年
26. 「卵子提供、代理懐胎(IVF サロガシー)の実態と展望」(石原理・梶原健と共著)『臨床婦人科産科』61(12)、1496-1501頁、2007年
27. 「熱いは冷たい、冷たいは熱い」『月刊みんぱく』2008年11月号、5頁、2008年
28. 「配偶子提供の現状」(石原理・岡垣竜吾・梶原健と共著)『臨床婦人科産科』63(11)、1415-1421頁、2009年
29. 「解題：クロード・レヴィ＝ストロース『ある未開民族における首長制の社会的および心理学的側面』(久保明教訳)」『現代思想』38(1)(2010年1月号)、88-89頁、2010年
30. 「傷つきやすい渡し守としてのワニ：レヴィ＝ストロースと稲羽の白ウサギ」『現代思想12月臨時増刊号、特集 出雲』41巻16号、187-197頁、2013年11月
31. 「シングル女性・同性カップルを対象とするART」(石原理と共著)『臨床婦人科産科』66(1)、130-137頁、2014年
32. 「スカンジナビアにおける第三者の関与する生殖医療」(石原理と共著)『厚生労働省 平成26年度児童福祉問題調査研究事業 諸外国の生殖補助医療における出自を知る権利の取り扱いに関する研究』5-24頁、日比野由利(金沢大学)発行、2015年3月
33. 「精子バンクと提供者の匿名・非匿名について」(石原理と共著)『厚生労働省 平成26年度児童福祉問題調査研究事業 諸外国の生殖補助医療における出自を知る権利の取り扱いに関する研究』100-110頁、日比野由利(金沢大学)発行、2015年3月

34. 「E.E. エヴァンズ-プリチャード」「クロード・レヴィ＝ストロース」岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学』ミネルヴァ書房 156-160 頁、180-186 頁、2018 年 4 月
35. 「構造主義の現代的意義」桑山敬巳・綾部真雄編『詳論文化人類学』ミネルヴァ書房 249-264 頁、2018 年 4 月
36. Birth Country as Totem: Korean Adoptees in Scandinavia and Their Nostalgia ?『社会文化論集』15、29-35 頁、2019 年 3 月
37. 「生殖医療技術の文化人類学」『神奈川大学評論』94、80-89 頁、2019 年 11 月
38. 「DI で親になるー海外の精子バンク利用者の思いー」『社会文化論集』17、31-42 頁、2021 年 3 月
39. 「失念・誤解・口の軽さ・ノスタルジア: コミュニケーション不全の神話学」『会報むろのつ』vol.30、14-18 頁、2021 年 11 月

#### <書 評>

1. 「Grace G. Harris 1978 *Casting Out Anger*」『人類文化』第 3 号、60-65 頁、1981 年
2. 「P. B. D. ヨセリン・デ・ヨング編『オランダ構造人類学』（宮崎恒二・遠藤央・郷太郎訳）」『思想』第 765 号、74-78 頁、1988 年
3. 「吉田禎吾・宮家準編『コスモスと社会』」『民族学研究』第 54 巻 2 号、218-221 頁、1989 年
4. 「アフリカ」『史学雑誌』第 100 巻 5 号（1990 年の歴史学界回顧と展望）、309-312 頁、1991 年
5. 「山田陽一著『霊の歌が聞こえる』」『民族学研究』第 58 巻 3 号、285-288 頁、1993 年
6. Douglas H. Johnson, *Nuer Prophet: A history of prophecy from the Upper Nile in the nineteenth and twentieth centuries*, Oxford: Clarendon Press, 1994, *Nilo-Ethiopian Studies*, vol.3-4 : 69-70, 1996 年
7. 「新刊紹介 小馬徹著『ユーミンとマクベス』」『民族学研究』第 62 巻 2 号、259 頁、1997 年
8. 「田中雅一編著『暴力の文化人類学』」『週刊読書人』1998 年 5 月 15 日号、第 4 面、1998 年
9. 「柘植あづみ著『文化としての生殖技術』」『図書新聞』2000 年 3 月 18 日号、第 3 面、2000 年
10. 「櫛島次郎著『先端医療のルール』」『科学』2002 年 3 月号、178-9 頁、2002 年
11. Brian Morris, *Animals and Ancestors: an ethnography*, *Anthropological Science*, vol. 110 (2) : 227, 2002 年
12. 「波平恵美子『からだの文化人類学』」『週刊読書人』2005 年 7 月 22 日号、第 4 面、2005 年
13. 「クロード・レヴィ＝ストロース著『生のもつと火を通したもの』、渡辺公三・木村秀雄編『レヴィ＝ストロース「神話論理」の森へ』」『週刊読書人』2006 年 6 月 16 日号、第 4 面、2006 年
14. CA comment on Gísli Pálsson, Genomic Anthropology: Coming in from the Gold, *Current Anthropology*, 49 (4) : 559, 2008 年
15. 「クロード・レヴィ＝ストロース著『パロール・ドネ』(中沢新一訳)」『週刊読書人』2009 年 7 月 24 日号、第 4 面、2009 年
16. 「椎野若菜著『結婚と死をめぐる女の民族誌』」『比較家族史研究』23 号、90-94 頁、2009 年
17. 「エマニュエル・トッド『家族システムの起源 I 上下』」『週刊読書人』2016 年 10 月 28 日号、第 4 面、2016 年
18. 「川田順造編『ナショナルアイデンティティを問い直す』」『淞雲』（島根大学図書館）22、45-47 頁、2020 年 3 月
19. 「本学教員が関わった本『神性と経験』」『淞雲』（島根大学図書館）22、31-32 頁、2020 年 3 月

### <項目執筆>

1. 「アンバ」「イラ」「ヴェンダ」「オヴィムブンドウ」「自殺」「シヨナ」「スワジ」「ソト」「チョピ」「ツワナ」「南部ソト」「ニャキユサ」「ハザ」「ロヴェドゥ」「ングニ」『文化人類学事典』弘文堂、1987年
2. 「性」『アフリカを知る事典』平凡社、232-234頁、1989年
3. 「アフリカ」『哲学・思想事典』岩波書店、31-32頁、1998年
4. 「一夫多妻」「エヴァンズ-プリチャード」「カーニバル」「コミュニタス」「シャーマン」「通過儀礼」「伝道」「トリックスター」「内婚/外婚」「ラドクリフ＝ブラウン」『政治学事典』弘文堂、2000年
5. 「イギリス民俗学」「金枝篇」「神話学」「フレイザー」「モース」他『日本民俗学事典』上下 吉川弘文館、1999-2000年
6. 「固有名」『事典哲学の木』講談社、397-400頁、2002年
7. 「クローン人間」綾部恒雄編『文化人類学最新術語100』弘文堂、56-7頁、2002年
8. 自著解題『名前のアケオロジー』『誕生のジェネオロジー』『臓器は「商品」か』、E.E. エヴァンズ＝プリチャード『社会人類学』『ヌア族の宗教』、「インセスト・タブー」「主知主義の宗教論争」「トーマティズム論争」、『文化人類学文献事典』弘文堂、2004年
9. 「血縁」「臓器移植」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善、2009年1月
10. 「血・血縁」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』丸善、652-653頁、2014年7月
11. 「国際養子縁組」比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂、121-122頁、2015年11月
12. 「レヴィ＝ストロースの構造主義」「今日のブリコラージュ」奥野克巳・石倉敏明編『Lexicon 現代人類学』以文社、14-16頁、30-33頁、2018年2月

### <参 考>

1. 「著者の視点、この人に聞く 『臓器は「商品」か』の著者、出口顯さん」『創価新報』2001年7月18日号
2. 「森下氏書評に応答する」『図書新聞』2001年7月28日号
3. 「所有・市場・人体の商品化」（森下直貴氏との対談）『アソシエ』9、8-33頁、2002年
4. 「第4セッション」の司会および各セッションならびに総括討論での討論参加、杉本良男編『宗教と文明化 20世紀における諸民族文化の伝統と変容』ドメス出版、2002年
5. 「編集後記」『民族学研究』67-3、2002年、『文化人類学』70-3、2005年
6. 「インタビュー記事、出口顯氏に聞く、文化人類学的な倫理とは」『図書新聞』2003年5月17日号

### <口頭発表（2004年4月1日～現在）>

- 2004.6.27 「臓器移植と比較文化論」（第15回日本サイコネフロロジー研究会）
- 2004.8.3. Comments to Halldor Stephansson, 'Science, Belief, and the Industry of Anti-aging', *International Workshop "The anthropology of human body parts as resources"* at Tokyo University
- 2004.11.20 「人類学における比較研究の再構築に向かって：趣旨説明」、国立民族学博物館共同研究会「人類学における比較研究の再構築に向かって」
- 2005.1.25 'Ethics in the Living Scene—neither Western nor Oriental', International conference on Bioethics, "Bioethics and Asian culture" at Dong-A University, Pusan, South Korea
- 2005.3.28 「資源としての人体とアイデンティティ」、資源人類学（科研・特定領域）公開シンポジウム『も



- のはどのように「資源」になるか』東京厚生年金会館
- 2005.6.11「家族形成の資源としての身体（部分）とアイデンティティ」B.C.S. 研究会、筑波大学大塚キャンパス
- 2005.7.9「DI・国際養子・エテロトピー」資源人類学身体資源班研究会、京都大学学士会館
- 2005.11.5 Comments to Naoshi Shinozaki's 'Corneal Transplantation and Human Tissue', *Circulation of Human Body Parts: Local, National and Beyond, The 2nd International Workshop of The Anthropology of Human Body Parts as Commercial Resources* at Gakushi Kaikan, Tokyo
- 2006.1.27「スウェーデンの国際養子とアイデンティティ」大阪大学 21 世紀 COE「トランスナショナルネットワーク」、大阪大学人間科学研究科
- 2006.11.19「人類学は単なる地域研究でいいのか：問題提起」日本文化人類学会第二回関東地区研究懇談会（第二回人類学バトル）、成城大学にて開催。
- 2006.12.17「スウェーデンの国際養子とアイデンティティ」国立歴史民俗博物館共同研究会「身体と人格をめぐる言説と実践」第 4 回研究会
- 2007.4.6.「北欧の国際養子に見る多様な家庭」第 27 回日本医学会総会セッション「生殖倫理と少子化対策」、大阪ローヤリーガルホテル第 11 会場
- 2007.6.2.「フーコーの『主体の解釈学』を読む」第 41 回日本文化人類学会研究大会、名古屋大学
- 2008.3.1.「構造主義の比較」国立民族学博物館共同研究会「人類学の方法としての比較の再構築に向けて」の報告、島根大学法文学部にて開催。
- 2008.12.6.「レヴィ＝ストロースと双子性の問い」日仏会館シンポジウム『今日のレヴィ＝ストロース』の報告。
- 2009.6.27.「Must we mean what we say?:レヴィ＝ストロース、エヴァンズ＝プリチャード、リーンハート」第 31 回中四国人類学談話会の報告、広島大学・東千田キャンパスで開催。
- 2010.2.6.「他者はリスクか：レヴィ＝ストロース神話論から」国立民族学博物館共同研究会「リスクと不確実性、および未来についての人類学的研究」の報告、島根大学法文学部にて開催。
- 2010.10.24.「北欧の国際養子縁組について」国立民族学博物館共同研究会「リプロダクションと家族のオールターナティブデザイン—文化と歴史の視点から」（代表松岡悦子・奈良女子大学教授）の報告、国立民族学博物館。
- 2010.11.19「研究室で教室の他者を考える：インゴルドのラドクリフ＝ブラウン講演を手がかりに」第 7 回フィールドサイエンス・コロキウム（第 4 回 A A 研基幹研究「人類学におけるマイクロ・マクロ系の連関」研究会）「フィールドサイエンスにおける「他者理解」の可能性」の報告、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 2011.1.22.「養父母になった国際養子たち：スカンジナビアの国際養子縁組におけるアイデンティティと親子関係」公開講演会『国境を越える身体とツーリズム』リプロダクション研究会主催、生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会・「女性に親和的なテクノロジーの探究と新しいヘルスケア・システムの想像」（科学研究費補助金、日比野由利代表）、代理出産を問い直す会共催、明治学院大学白金キャンパス。
- 2011.5.21.「国際養子縁組における血のつながり：養父母になった国際養子—北欧の事例から」国立民族学博物館共同研究会「人類学における家族研究の新たな可能性」（小池誠代表）の報告、国立民族

学博物館。

2011.8.27.「生殖医療の代替策としての国際養子縁組：養父母になった北欧の国際養子たち」STS Network Japan、夏の学校での招待講演、高松市。

2012.2.10.「レヴィ＝ストロースの『遠い眼差し』について」大阪大学最先端ときめき研究推進事業「バイオサイエンスの時代における人間の未来」第27回、大阪大学（吹田キャンパス）生命科学図書館4階 AV ホール。

2012.3.18「多様化する家族のかたち：スカンジナビア諸国の国際養子縁組の事例を中心に」GID（性同一性障害）学会第14回研究大会シンポジウム4「家族を考える」の発表、岡山大学鹿田キャンパス。

2012.7.28「エンバミングと記号化するからだ」国立民族学博物館共同研究会『物質性の人類学』、於国立民族学博物館

2013.4.7「スウェーデンのファータリティ・ツーリズムと国際養子縁組」生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会第22回「グローバル化時代における生殖技術と家族形成」での報告、立命館大学衣笠キャンパス。

2014.5.15「北欧の国際養子縁組と越境する家族形成」比較家族史学会第56回研究大会企画セッション2「親子関係の現在」での報告、千葉大学文学部。

2014.6.19「生殖医療の代替策としての国際養子縁組」「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム公開セミナー「生殖医療と家族の形」での講演、岡山大学大学院保健学研究科。

2014.11.15 Birth Country as a Totem, 韓国文化人類学会研究大会での報告、韓国・テグ市嶺南大学。

2014.12.4.「北欧の国際養子縁組と越境する家族形成」第59回日本生殖医学会学術講演会招待シンポジウムでの報告、東京・京王プラザホテル。

2015.5.9「家族における血縁の意味—文化人類学からみた配偶子提供と匿名性について」JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセラー実務研修での講演、大阪、新大阪丸ビル新館 307号室。

2015.6.25「国際養子という事実を告げる＝受け入れる」『妊娠中からの母子支援』即戦力育成プログラム公開セミナー「生と死の倫理 配偶子提供を伝える」での講演、岡山大学大学院保健学研究科。

2015.12.13「都立流構造人類学の系譜と他者論への展開」『東京都立大学・首都大学東京社会人類学研究室60周年記念シンポジウム 何を受け継いできたのか、受け継いでいくのか—都立大・首都大の社会人類学の変遷と連続性』首都大学東京南大沢キャンパス国際交流会館。

2016.1.24「駆け引きの神話論理—傷つきやすい渡し守からブリコラージュ、アフォーダンスへ」明治大学野生の科学研究所主催『『対称性』の扉を開く』研究会第三回「神話と感覚の人類学」での講演、明治大学駿河台キャンパス、グローバルホール。

2016.3.10「国際養子と出自を知る権利」立命館大学「生殖補助医療と家族形成」研究会での報告、立命館大学朱雀キャンパス。

2019.8.2「文化人類学から見た生殖医療における同意とアイデンティティ」第37回受精着床学会招待講演 京王プラザホテル

#### <新聞の取材・執筆>

2009.5.13 山陰中央新報 サイエンスカフェでの講義模様（翌日の新聞に掲載）

2009.6.18. 山陰中央新報 臓器移植法案衆院可決について（翌日の新聞に掲載）

2009.6.23. 共同通信 臓器移植法案衆院可決について（6.30の山陰中央新報の文化欄、「思考のフィー

ルドワーク」に掲載)

2011.10.31. 朝日新聞大阪本社版夕刊「知遊自在 仮面は隠さない3」

2016.10.16. 「名字のない社会に学ぶ男女共同参画」『山陰中央新報』2016年10月16日『談論風発』  
480

2017.1.15. 「北欧の国際養子縁組 原点に他者への寛容さ」『山陰中央新報』2017年1月15日『談論風発』  
490

2021.8.2. 「追悼 喜多村正先生」『山陰中央新報』2021年8月2日

